

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第132号(2018. 3. 1)
事務局 川西地区自主防災会

できることからコツコツと

㈱中野屋 代表取締役 中野吉貫

① 会社プロフィール

私は㈱中野屋 3代目 70才の中野吉貫（よしつら）と申します。

弊社は、大正3年、金刀比羅宮門前で創業。お陰さまで、創業104周年を迎えることができ、これも金刀比羅宮および参拝されるお客様のお陰と感謝しております。

琴平町に5店舗、高松市に1店舗あり、社員は約70名の中小企業です。業務は旅行代理店様からの団体のお客様・個人のお客様に、飲食、うどん作り体験の提供、お土産品の開発・販売、駐車場経営です。



私は、東かがわ市出身で、大和ハウス工業退職後、昭和47年、縁あって入社しました。「よそ者」「技術屋バカ」と言われながら、ここまでやってこられたのも全国の良き先輩からのご指導や従業員たちの改善、努力の賜物と思っております。



昭和56年に、ひと昔前では、家庭でも当たり前だった、『うどん打ち』を観光客に体験していただくことを考案しました。平成15年にさぬきうどんブームが到来し、全国の皆様に評価されるようになりました。近年、「モノ」から「コト」の時代になり、メディア・SNSのお陰で、国内外のお客様にご来店頂くようになりました。開校当初には考えられない事です。

また、お土産の商品開発にも力を注ぎました。

ご家庭で手軽にうどん打ち体験や、手切りうどんを楽しめる『巻物うどん』を開発し、第1回おみやげアカデミーグランプリを受賞しました。

② 経営理念

中野うどん学校の理念を

- 一、全国全世界の皆様へ、さぬきうどんのファンになっていただくこと
 - 一、お客様へ、さぬき路での旅の思い出を作っていただくこと
- と決めました。

また、中野屋《なかのいい3訓》として

- 一、良質な品で飽きない
- 一、良い人に信愛され
- 一、仲良く健康に考働

と決めました。

③ 企業としての防災減災対策

弊社は、飲食業のため、ガスコンロだけでも100台程度あります、なにより火災が一番心配です。

終業時には火元確認の徹底を教育し、建築は耐火構造と近隣への延焼対策を行っています。

過去には、台風による予約の取消、阪神淡路大震災での売上40%減を経験しました。

いずれ発生すると言われていた南海トラフ地震によって、四国の観光業は壊滅的被害を受ける覚悟が必要と思われます。



④ 家庭における防災減災対策

最近、新聞に防災グッズセットの広告を良く見かけます、だいたい数万円はします。

私は、物不足の時代に育ったせいか、物を生かすことを考えました。

古い旅行用トランクケースの再利用を思いつき、100円均一で新聞広告と同じ備品を揃えてみました。約半分の価格で備えることができました。

2セットを常備し、ケースの外へ大きく非常用防災備品と表示しております。

また、消火器、大型懐中電灯を自宅廊下に常備し、4世代の家族が常によく見えるようにし、防災に対して意識をさせています。



⑤ 地域にかかれる取り組み等

こんぴらさんには、年間数百万人お客様が来られます。

もし、地震・台風・土砂崩壊等、自然災害が発生した場合、組織の責任者として、自治会会長として、第一に観光客と地元住民の救助・避難誘導などの重責が頭から離れません。

弊社では、備えとして、町内防災用品、大型非常発電機、屋内屋外消火栓、薪釜、非常用便槽などの対策をとっております。

また非常時には、井戸水の活用、業務用食材の調理提供を検討しております。



事務局だより

平成30年 3月

今月の事務局だよりは、岩崎会長の近況をお知らせします。

防災シンポジウム（久留米市）に参加してきました。

久留米市で開催された防災シンポジウム（国交省九州地方整備局主催）にパネリストとして参加。その概要について報告したい。

会場は久留米シティプラザの中ホール（500人収容）で開催され、雨天にもかかわらず立見席ができるほどの大盛況でした。



◎小池先生（水災害リスクマネジメント国際センタ長）の基調講演を拝聴。

テーマ：頻発する水害の背景と地域防災力の向上

サブテーマ：頻発する水災害と気候の変化

〃：地域防災力とラストワンマイル

過去の水災害によって「避難の遅れなどによる多くの住民が孤立」たとえば鬼怒川のはんらんでは、約4,300人がヘリコプターで救助される、更に、宅地及び公共施設等の浸水が解消するのに10日間要した。

集中豪雨の発生回数も、1時間降水量50mm以上の雨の発生頻度は30年前と比較して1.5倍に100mm以上は2倍に増加と大気における水循環の変動が激しくなっている。

ラストワンマイルは個の力を伸ばすことに尽きるが、その能力を高めるにはキチンとした組織が必要であり、共助の要となる自主防災会の育成が大変重要になってくる。



◎パネルディスカッションに参加

～いのちを守る避難行動と地域防災力の向上～

コーディネーター：小松 利光 氏（九州大学名誉教授）

パネリスト：岩崎 正朔 氏（丸亀市川西地区自主防災会 会長）
伊藤 睦人 氏（朝倉市松末地域コミュニティ協議会 会長）
柳原 志保 氏（防災士）
森山 志織 氏（飯塚市立鯉田小学校 校長）
原田 啓介 氏（日田市長）
竹島 睦（九州地方整備局 河川部長）



特に発言内容に注目したのは、

- ・ 公設避難所が遠く（約 10k 先）避難に躊躇し、やむなく自宅避難。しかし何戸か流された。
- ・ 家が使えず、避難生活を体験したが、お世話していただいた行政職員すべてが上から目線の対応。たまらなくイヤだった。最と氣くばりしてほしい。
…朝倉市内コミュニティ会長…
- ・ 東日本、熊本ダブル被災経験を生かし、女性の立場から防災・減災活動、PTA 活動の中などの取組みの中で若い人達の中へ率先して飛び込み、歌などを交えた防災研修を実践。 …女性防災士…
- ・ 河川氾濫防止に川をきれいにしようと 6 年生児童から提案を受け、6 年生児童約 70 名、年 3 回、河川清掃活動を実施している。 …小学校校長…

編集後記

今月の防災減災の輪は、琴平町の株式会社中野屋中野吉貴社長の原稿を掲載させていただきました。ありがとうございました。

